

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200289		
法人名	(株) 縁		
事業所名	グループホーム倉敷・楽々苑		
所在地	倉敷市西岡1153-1		
自己評価作成日	H221218	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390200289&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが職員と共にその人らしく穏やかに暮らして頂けるように 経営理念の(自然 安心 快適)を基に医療機関と連携を取り、地域との交流を図りながら安心して頂き快適な生活を送って頂けるように配慮しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年と同様、12月にこのホームを訪問した。今回はホーム長が交代しており、今年の1月から南館の管理者・計画作成担当者を兼務したままで就任していた。毎朝、全員で体操とリハビリをして、心身の機能維持又は低下防止にと利用者に頑張ってもらっている。その他に習字や塗り絵、貼り絵等をしたり、本社から提供されている「血液サラサラ運動」を毎日して頭脳の活性化を図っている。
このホームには2ユニットあるが、1つのユニットは女性ばかり、もう一つのユニットは男性8人と女性1人(男性ばかりといっても良い)という珍しい利用者の構成である。これは別に故意にしたのではなく自然になってしまったと言うが、善し悪しを言う訳ではないが、女性の方は「動」、男性の方は「静」を感じる。又、言い方を変えれば女性の方は「情」、男性の方は「知」と言えるかも知れない。それぞれの集団としてのケアのあり方を見出すのも良いかも知れない。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の経営理念に基づき「自然 安心 快適」を全職員が把握し、その人らしく暮らしているように支えている	毎朝申し送り時に「自然の中で安心して快適に過ごしてもらおう」という理念を確認し合っている。今は特に「安心」を心がけ、転倒や怪我がないように気をつけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域の方との交流を深めている	近くの教会のバザーや地域の祭りに参加したりしている。また教会からもボランティアや子供たちの訪問があり、演奏や講話をもらっている。夕涼み会に家族や地域の人を招き、皆で焼きそばを楽しんだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りなど積極的に参加し交流を深めている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っており、会議の内容を家族に報告し、意見を取り入れサービス向上に努めている	今年度は2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。民生委員・包括センター・家族・他のホーム等の参加を得て、行事の報告をしたり、感染症等の情報を得たり、食事の業者や消防の話しを聞いたりしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課に出向きサービスの取り組みを伝え向上に努めている	運営推進会議の案内は毎回送っており、職員に参加してもらったこともある。疑問や問題点があれば介護保険課に出向き相談している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し会議において理解を深めている	身体拘束に関するマニュアルを作成している。会議で研修を行い、職員間で話し合っている。ベッド柵を使用しない安全策を考える等している。帰宅願望が強い人があり、現在はユニット入口に鍵をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し会議において理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を活用されている利用者もおられ、会議においても制度を理解するようにしている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時より契約に至る間、電話連絡により、不安や疑問点について理解を頂いている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で家族の意見を聴き運営に反映させている	面会や行事に来る家族は一部の家族に限られるが、来訪時や運営推進会議で意見や気持ちを述べてもらっている。利用者との関係が希薄な家族からは意見が少ない。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞き運営に反映させている	新しい職員体制になり意思統一のために、職員会議はユニット会議・全体会議・管理者会議などほぼ毎月行っている。職員の意見を管理者が聞き、法人への要望を伝えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各自勤務状態を把握し働いている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は誰でも行かれるように告知板に提示している、資格修得希望者には勤務上の配慮を行い働きながら習得できるようにしている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加させて頂き質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安な事、困っている事に話の聞ける環境作りをし、傾聴受け止めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密に連絡を取り困っていること、不安に思っていることが言えるような関係作りに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する段階で家族が必要としているサービス見極め対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でされて嫌なことはしないとの思いを職員で話をし支え合う関係を築いている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が訪ねて来られるように電話等行い支援につとめている	利用者の重度化もあり、馴染みの場所へ出かけて行くことはないが、知人の来訪があったり、電話をしたりすることはある。希望により手紙を出してあげることもある	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う合わない事を、日頃より観察を行って行き入居者同士支え合いが持てる環境作りを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係を大切に相談連絡が出来る関係に努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向を把握に努め職員で共有している	入浴中に昔の話をしてどんな思いをしているかを聞きだすなど、本音の把握に努めている。介護計画にも本人に希望の生活を聞いている。話せない人では生活歴などを参考に、希望を推し量っている。	生活歴や得意なことなど利用者についての情報をもっと多く収集し、利用者の思いを引き出せる話題作りをしてほしい。また、どんな生活を望むかを十分聞きだしてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時これまでの本人の生活歴、生活環境の把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動記録・イタルチェック表ケアプランにより把握している		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	期間に応じモニタリングを実施し、本人家族や必要な関係者と話し合い現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行う。担当職員と計画作成者とその場にいる職員でモニタリングを行い、新たな計画追加などをする。利用者本人の希望を聞いたり、日々の計画実施状況を参考にしている。	利用者の情報をもっと詳しく収集し、どんな暮らしを望むか利用者の思いを聞き取り、その人に相応しい支援を具体的に掲げて実行してもらいたい。そのために、よく話しを聞いて欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し職員間で情報を共有している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所同士の情報交換により、本人や家族の希望に添える支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の教会を訪問し交流を深めている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望により、かかりつけ医をきめている、かかりつけ医と事業所の関係は良く何事も相談出来る体制を維持している	提携医の往診が2週間に1回ある。訪問看護も週1回来ている。以前からのかかりつけ医への受診は家族に対応を依頼している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	/週回訪問看護師に来て頂き利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と話し合いながら早期に退院を含め情報交換や相談が出来る関係作りを行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞きそれに添って重度化に伴う意志の確認し説明を行って医師の往診を受けるなど支援している	医師が24時間対応してくれるが、まだ看取りの経験はなく、終末期の対応が必要になったとき医師や家族と話し合っって対応を決める。ホームとしては座位での食事が難しくなると、次の受け入れ先を家族と相談する。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で勉強会を度々行い全員で話し合い実践力を身に付けている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の避難訓練を定期的に行っている	年2回消防も来て避難訓練を行っている。スプリンクラーは年度末までに設置される予定。非常口は多く避難しやすい建物構造である。	災害時に近隣住民の支援が得られるように、町内会に依頼しておきたい。行事に近所の人を招くなどしてホームを知ってもらい、避難訓練にも参加してもらえようになりたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し親しみの中にも礼節を保ち言葉かけを心掛けている	排泄や入浴の介助で最も気を使い、その人の気持ちを大切に声かけの仕方をするようにしている。職員との触れ合いの度合いを考えて、親しみを込めた言葉遣いをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが本人の思いや希望が言えるよう、日々密接な関係が保てるように支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが身体状況に合った暮らしが出来るように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来苑して頂きカット、毛染めをし身だしなみやおしゃれが出来るように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり身体状況に合わせ食事飲み物を飲んで頂くように支援している	行事食を含めて、1日3食とも業者の調理済みの食事を利用している。刻み食やおかゆは人に合わせて調理する。おやつは手作りすることもある。職員は別に食事し、食事時には利用者の介助に当たっている。	利用者の手伝える作業を少しでも考え出して取組んでもらったり、食事時の話題を提供したりして、楽しい食事をしてもらいたい。時には職員も一緒に食べたり外食をしたりして欲しい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況や習慣に合わせた食事水分量が確保できるように支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状況に合わせ歯磨きを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンに添って支援している	1人ひとりの排泄をチェックしており、昼間は全員トイレで排泄するようにしている。何人かの自立の人意外には声かけてトイレ誘導する。男性の場合は2人で介助する。夜間ポータブルトイレを使用する人もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレ誘導 内服等を実施しスムーズな排泄を心掛けている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間 シャワー浴等本人の希望に添った入浴を支援している	1日おきに風呂を沸かし、その日は全員が朝から順に入浴する。できるだけその人の好みの時間に合わせて入浴してもらおう。男性の場合2人で介助する。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、就寝時間睡眠パターンを把握し昼寝も状況に合わせて支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表にて職員一人ひとりが確認できるように努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ事など気分転換の支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に出掛けられるように支援している 地域の行事にも家族や地域の人たちの協力しながら支援している	犬の散歩に利用者も出かけたり、家族が散歩に毎日連れ出してくれたりしているほか、桜やアジサイなど季節に合わせて近くの寺や公園に出かけている。利用者の重度化や家族の状況もあり、全体での外出はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望もあり金銭は持たないようにしている 本人希望で欲しい品物があれば購入している		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話や手紙のやり取りができるように支援している		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は共同で季節の貼り絵等作成し、季節感を取り入れている ソファを置き生活感を出せるように工夫している	北ユニットのリビングは、災害時に避難場所提供を考慮するほど広く、2つのユニットの合同行事に使うのに十分で、車椅子の利用者が自由に動くことができる。自由に座れるソファがあり、利用者の作品が貼ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士お話をされたり歌や体操されたり思い思いに過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて家族とお話されたり、お茶を飲んで頂いている	居室には作りつけの便利な棚があり、服を掛けたりテレビを置いたりしている。ベッドと布団はレンタル利用である。写真や作品を貼っている人もあるが、男性の部屋は簡素なことが多い。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりできる事は自分でして頂くなど自立した生活が送れるようにしている		